

●発行日：2019年1月19日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

[illegible]

2019年教育の行き先 2019年度中学受験に関して

今年も、いよいよ中学入試が本格的に始まります。近年の中学入試では、2020年度から大学入試センター試験に代わって実施される「大学入学共通テスト」や、これを作るためのデータ収集を目的として、2017年度、2018年度に実施された「試行調査」の影響を受けた問題が、少しずつ見られるようになってきました。

まず、「大学入学共通テスト」について確認しておきましょう。このテストは、高校での学習を通じて、大学教育に必要となる基礎的な力がどのくらい身についているかを評価するテストです。特に「知識の深い理解」「思考力、判断力、表現力」が重視されます。

ここで注目したいのは、2018年6月に、独立行政法人大学入試センターより発表された「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について」です。この発表では、この時点での問題作成方針が示されました。国語と数学については、下記のような問題作成方針が示されています。

【国語】

・言語を手掛かりとしながら、与えられた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりすることなどが求められる。

・大問ごとに固定化した分野から一つの題材で問題を作成するのではなく、分野を越えて題材を組み合わせたり、同一分野において複数の題材を組み合わせたりする問題も含まれる。

【数学】

・事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすこと、構想・見通しを立てること、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理すること、解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることなどが求められる。

・ 日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、教科書等では扱われておらず受検生が既知ではないものも含めた数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等も取り扱う。

中学入試でも、この影響を受けた問題はさらに増えるのではないのでしょうか。

「大学入学共通テスト」や「試行調査」の影響を受け、近年の中学入試で特に出題数が増えた問題は、「『分野の異なる複数の文章』『文章と図』『文章と資料』などの複数の情報を組み合わせて解く問題」です。また「日常生活での場面を設定し、学習したことを活用して解く」「知識やセンスだけに頼らず、様々な角度から多面的に考えて解く」「与えられた情報を元に、問題を解くのに必要な知識を抽出し、活用して解く」といった問題も、やはり「大学入学共通テスト」や「試行調査」を受け、出題数が増えています。児童の思考力や判断力を問う、このような出題は、今年の中学入試では、さらに増加すると考えられます。

国語・算数の基本的な教科の力を問う問題が、今年も出題の中心であることは間違いありません。いっぽうで、ここに挙げたような「大学入学共通テスト」の影響を受けた問題が増加していくのであれば、特に難関校では、このような問題に対応し、得点を重ねた児童が、合格を勝ち取っていく可能性は高いといえるでしょう。（文／学林舎編集部）

2019年教育の行き先 2019年度高校受験に関して

現行の大学入試センター試験に代わって、2020年度から「大学入学共通テスト」が実施されます。2018年に行われた高校入試を受験した生徒が、この「大学入学共通テスト」の初年度の受験生となるため、昨年の高校入試でも大幅な変更が予測されましたが、一部の学校を除いて、難易度、分量に大きな変更はありませんでした。

しかし、ここ数年で、「大学入学共通テスト」を見据えて「思考力・判断力・表現力」を意識した新しい切り口の問題が目立ってきており、今年度の入試でも増える可能性があります。

今回は、国語、数学、英語について、近年の入試の傾向から、今年の入試について考えてみたいと思います。

【国語】

・話し合いやインタビューなどの会話形式の出題が増加傾向にあり、実際の言語生活の中で必要とされる言語についての知識や表現力が問われています。

・作文問題は、従来の与えられたテーマから自分の意見を述べるものや、複数の資料を読み取り、その資料から自分の意見をまとめて、他の人を納得できるように記述する、「課題解決型」の問題が2018年度の入試では増加しました。「課題解決型」の問題は「大学入学共通テスト」の試行調査(プレテスト)で出題されており、その影響を受けていると考えられます。

・読解問題では、現代社会をテーマとした出題が増え、哲学的な文章も出題されました。現代社会のさまざまな課題を解決するために、物事を根本から考える力が必要となります。そうした思考力の基礎を作る意味で、哲学的な文章が出題されていると考えられます。

【数学】

・例年、基本的な知識や計算力を必要とする問題が出されています。教科書をもとに知識を使いこなす力と正確な計算力を養うことが大切となります。

・「大学入学共通テスト」の数学では、記述式問題が

導入されます。この影響から、解答の途中過程や考え方なども問う問題が多く出されており、考え方を論理的に表現する力が重視されています。

・方程式や確率などで問題文の量が多い文章題の出題が増えています。「大学入学共通テスト」に向けて、教科を問わず問題文の長文化が進むと考えられますので、読解力の養成が必要となります。

【英語】

・長文読解では、従来多かった「学校生活」、「家族」などの身近なテーマ以外に、時事的な内容や科学、産業、自然、環境、文化などを題材とした長文読解問題が増加しています。

・4技法(読む・聞く・書く・話す)で評価する方向に変化しつつあり、2018年度の福井県の入試では、英検の取得級に応じて、加点する制度が導入されました。今後、このような制度の導入が増える可能性があります。

・自分の考えを書かせる問題が増加しつつあります。例えば、2018年度の埼玉県の入試では、「AI(人工知能)」についての英文を読み、自分の考えを40語以上50語程度の英語で書く問題が出題されました。このような、時事的な内容と関連して自分の考えを書く英作文の出題も増加傾向にあります。

ここ数年の高校入試の傾向を見る限り、今年の入試では、従来の計算、漢字の読み書きなどの基本的な「知識・技能」を評価する問題と、「思考力・判断力・表現力」を評価する新傾向問題が混在していく可能性があります。「知識・技能」型の問題と、これまでの対策では困難な「思考力・判断力・表現力」型の問題の両方に対応していくことが重要であるといえるでしょう。(文/学林舎編集部)

2019年教育の行き先 大学入試共通テスト—英語に関して

大学入試センター試験は2019年度（2020年1月）の実施を最後に廃止され、これにかわって2020年度から「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」）が始まります。

英語では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価するために、民間の資格・検定試験の成績が利用されます。この成績を利用するにあたり、共通テストを実施する「大学入試センター」は、英語成績データ確認システム（仮称）などを設置します。ここでは、民間の資格・検定試験の成績活用の概要と、システム利用に向けた今後の動きについて解説します。

1. 背景

センター試験の後継となる共通テストはこれまでと同様に約50万人の受験が予想されることから、一斉に受験するテストで、「話す」技能をその場で測ることが難しいため、民間の資格・検定試験の活用が決まりました。TOEICやTOEFLのほか、従来の英検とは異なる新方式の英検などの資格・検定試験が採用されました。

2. 活用方法

国立大学協会は当初、「民間の資格・検定試験とマークシート式の共通テストの両方を課す」という基本方針を発表していましたが、東京大学や東北大学などは民間の資格・検定試験の成績を受験の必須条件としない、と発表しました。今後、各大学の方針が明らかになる予定ですが、成績活用の方法として下記のようものが想定されます。

- ・資格・検定試験での一定水準以上の成績を受験資格とする。
- ・資格・検定試験の結果に基づき、大学入学共通テストの英語の成績に加点。
- ・資格・検定試験の結果に基づき、個別試験における加点・みなし満点等。
- ・「総合型選抜・学校推薦型選抜」における評価材料として活用。

成績は各民間の資格・検定実施団体から大学入試センターに提供された後、各大学の要請に応じて、大学入試センターからデータが送付されます。

3. 資格・検定試験受検について

現役受験生の場合、高校3年生の4月から12月の間に、対象となる資格・検定試験を2回受検し、その成績を大学入試センターのシステムに登録します。同じ試験を2回受検しても、別の試験を1回ずつ受検しても構いません。3回以上受検して登録した場合は、試験実施日（試験実施日が複数にわたる場合は、最初の日）が早い順に2件の成績のみが対象となり、それ以外は無効となります。

4. システム運用方法

・共通ID

成績情報の識別・管理のため、どの資格・検定試験を受検するかにかかわらず、受験者（システム利用者）は、資格・検定試験の受検前に大学入試センターから共通IDを発行してもらいます。ID発行の申し込みは、現役受験生の場合は高校を通して一括で、既卒者は個人で直接行います。2020年度入試では、2019年11月から申し込み受付が始まり、2019年12月～2020年1月ごろに共通IDが発行されます。

・成績登録

各受験生がどの資格・検定試験の成績を利用するかは、各資格・検定試験への受検申込みの際に共通IDを記入して意思表示を行うこととなります。そのため、共通ID発行申し込みの時点では、利用する資格・検定試験を決めておく必要はありません。

注意事項としては、下記があげられます。

- ・資格・検定試験の受検を申し込む時点では、共通IDを既に取得していなければならず、共通IDの取得後にさかのぼって、それ以前に受検した資格・検定試験の成績を利用することはできない。
- ・複数の資格・検定試験の中から、受験生が事後に大学への成績送付の対象とする資格・検定試験を選ぶことはできない（資格・検定試験受検時に共通IDを記載することが必須）。
- ・共通IDを記入して資格・検定試験を受検した後で、大学への成績送付を取り消すことはできない。

大学入試センターは、2019年度に高校や大学を対象に説明会を開くほか、共通IDや成績提供の仕組み等についての問い合わせに対応するため、2019年秋ごろにコールセンター（ヘルプデスク）を設置する予定です。（文／学林舎編集部）



クロスロード crossroad

第 89 回 文／吉田 良治

自立の勧め

今年は1月14日が成人の日でした。約125万人の若者が新成人となりました。既に社会にでて仕事をしている方もいますし、大学生などで引き続き学び続けている方もおられ、それぞれの人生を歩んでおられます。これまで20歳で成人とされてきましたが、2016年より18歳から選挙権が得られ、2022年4月から正式に成人年齢が18歳に引き下げられることになっています。煙草やお酒など喫煙や飲酒、公営ギャンブルなどは今まで通り20歳からですが、携帯電話やクレジットカード、一人暮らしで賃貸物件の契約、高額商品のローンを組むことなど、これまで20歳以上でないとできなかったことが、18歳からできることになります。早ければ高校在学中に18歳を迎えるので、今後より早い時期から自立に向けた導き・教育の提供が必要になります。

アメリカでは高校卒業後親元を離れて生きていく・親離れが一般的で、地元の大学へ通う場合であっても、大学の寮などで生活する若者が多くいます。2015年まで阪神タイガースで活躍したマット・マートンと、2011年に読売新聞の企画で対談した際、高校卒業後親元を離れて生きる若者が多い理由をマートンに聞いたところ、“アメリカでは高校卒業後自立するという考えが一般的で、高校卒業後も親と同居していると、「あの家は何かおかしいのではないか？」と思われてしまう！”と話していました。“Independent”の国・アメリカですので親は、子供が高校卒業後自立して生きていくよう躰をしていくことになるのだそうです。マートン自身も実家から自動車ですら1時間ほどの大学へ進学しましたが、大学寮で生活したそうです。高校卒業が親から自立して生きる！その自覚が親、そ

して子双方に必要なだ、と話していました。

精神的な自立はできても経済的な自立は簡単ではありません。高卒後就職するのであれば親からの自立は可能ですが、大学進学となるとフルタイムで仕事ができない分、経済的な自立は困難です。そのうえアメリカの大学の学費は、州立大学でも年間1万ドル以上になることが一般的で、私立大学になると4年間で家1軒購入するくらいのコストがかかります。大学生が経済的に親へ依存せず生きていくために、アメリカの学生は奨学金や学資ローンなどを利用することになります。

アメリカでは大学進学とその費用は人生の投資と考えて、卒業後投資した資金の回収、つまり投資対効果を意識して大学進学を考えます。マートンが進学したジョージア工科大学では、大学卒業後20年間での収入総額と、高卒後24年で得られる総収入との差額が77万～85万ドルの開きが出てくるといわれています。ジョージア工科大学の4年間の学費総額が10万～18万ドルですので、その投資が80万ドルの効果が見込まれるということになります。学位によっては5年目未満の平均年俸は7万ドルを超え、職歴1年未満でも6万5,000ドルです。新卒者でも高額年俸を得ることができるのは、即戦力として仕事ができるからです。日本の場合大学新卒初任給は21万～22万円が一般的で、年収にすると260万円となりますから、学位に対する価値が職能とリンクしているということが、日米で新卒者の年収に反映されます。

日本の場合は新卒者に入社後一から仕事を教えていくことが一般的で、入社後初日からバッターボックスに立って結果が求められるアメリカとは、社会人スタート時点で格段の差があります。これは自立に対する意識、学費が人生の投資という教育の差ともいえるのかもしれませんが。(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランプライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog <http://ameblo.jp/outside-the-box/>